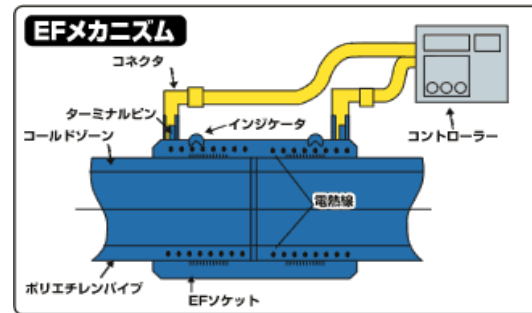


## 【管と管の接合は電気による融着です】

管接続、融着状況



接合部は電熱によって融着・接合するEF接合方式を採用しており、接合部が強固に一体化でき、高い水密性を確保しています。



## 【管路を切り替えるための弁・バイパス管を設置しています】



弁の操作により、任意の管路への放流が選択できます。



弁の上部工です

鉄蓋を開け、専用ハンドル差し込み、それを廻すことにより弁の開閉を行います。

### 【お問い合わせ先】

施工者：(株)まるしん産業

東区戸坂山崎町4番47号  
TEL (082)-229-6123



発注者：広島市 環境局 施設部  
恵下埋立地建設事務所

TEL (082)-923-6011

## 恵下埋立地(仮称)浸出水放流管建設工事28-1

# 工事だより

平成28年 No.2 (12月号)



### 【工事の目的について】

埋立地で発生する浸出水を公共下水道へ放流するための管きょ工事です。  
管布設完了後、道路(車両走行部分)の全面復旧を行います。

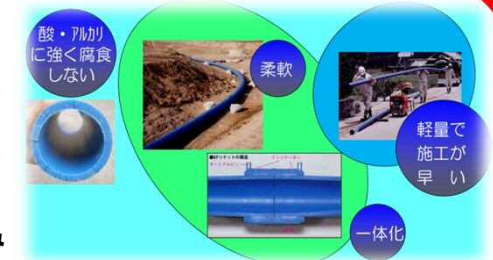
### 【管の材質について】

放流管は、酸・アルカリに強く腐食しにくく、柔軟性に富み耐震性能に優れたポリエチレン管を使用します。

### 【工事の工程について】

下表のとおり計画しています。

工種	H28.9	H28.10	H28.11	H28.12	H29.1	H29.2	H29.3
準備工	■	■	■	■	■	■	■
マンホール工		■	■	■	■	■	■
管きょ工		■	■	■	■	■	■
舗装復旧工					■	■	■



浸出水圧送管路の保守点検整備を行うための管理用マンホールを設置し、高い水密性・柔軟性・耐摩耗及び耐食性を備えた下水道用ポリエチレン管を2条布設する、管きょ工を施工しています。

工事は皆様の御協力により、概ね順調に進捗しており、来年1月中旬頃まで管きょ工を施工し、その後舗装復旧工を行うよう計画しています。

## 《工事内容のご紹介》

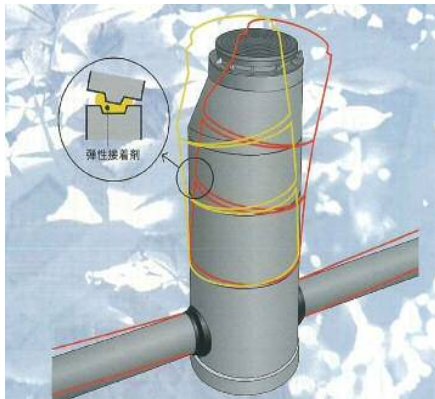
【二系統整備しています】

管路及びマンホール設置



放流中でも点検できるよう、それぞれ二系統で整備しています。

【耐震性を有す管路を建設しています】



高強度・高水密性の部材を弾性接着材により接合することにより、耐震性能をより向上させています。



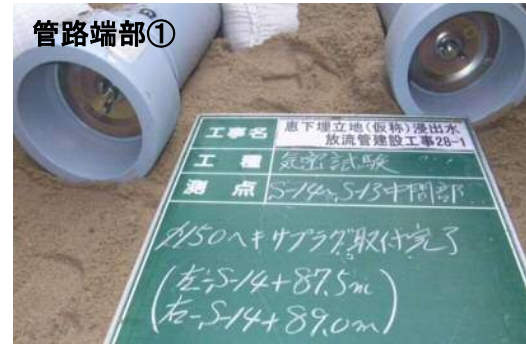
耐震性、水密性に優れたマンホール継手を使用しています。

【水密性・耐スリップ性能を向上させた、かわいらしいデザインの鉄蓋を使用しています】



## 放流管の水密性の確認について

管路の両端に栓を着け、管路内の空気を吸い込み、真空の度合いを確認します。



管外の空気が入らないように、しっかりとキャップを固定



-0.07MPa  
1時間保持

### ◆気密(真空)試験の方法について

管路の両端に栓を着け、その管路の中の空気を真空ポンプにより吸い込んで、管路内を所定の負圧状態とします。

《電気融着接合が不完全であれば、その部分から管の外の空気を吸い込んでしまうため、管内が負圧状態になりません》

さらに、この状態を1時間保てるかどうか確認(圧力低下が3%以内であることを確認)し、管の水密性を検証しています。

## 供用開始後の放流管の維持管理について

点検マンホールの中



通常は一体の管路ですが  
点検時、この部分を脱着します

### ◆管内調査について

計画的に放流管内の調査が行えるよう、管路に伸縮脱着部を設けています。

点検の際は、この部分を外し、そこから管内テレビカメラ調査を行うほか、必要であれば管内洗浄等を行います。

自走式カメラ挿入状況



自走式カメラ



モニター車でカメラを遠隔操作

